



みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動続ける人たちがいます。

野外活動で心を磨く、たくましい少年少女たち

～ボーイスカウト北海道連盟

自立心のある健全な青少年を育てることを目的に、世界約百五十以上の国と地域で行われているボーイスカウト活動。札幌でも十五団、約千人の青少年が参加しています。制服を身に着け、募金活動や行事での奉仕活動を行う姿を見掛けたことのある方も多いのではないのでしょうか。

六月八日(日)、北海道神宮に勢ぞろいしたのは、札幌地区第一団の子供たち。社務所裏の小道を清掃するため、約百人が集まりました。「夏休みには、神宮の敷地にテントを張って、キャンプをするんですよ」と教えてくれたのは、佐々木楓君(西区・西野中三年)。奉仕活動で知られるボ

ーイスカウトですが、大きな柱となっているのは野外活動です。「火のおこし方とか、ロープの結び方とか、野外活動で必要なことをたくさん覚えました」と話すのは、今井峻君(中央区・向陵中三年)。

活動は主に休日。小学校入学前の秋から大学生相当の年齢までが対象で、男女は問いません。年代により五つの部門に分かれており、高校生以上になると指導的な役割を持つこともあります。

このような活動を行っているボーイスカウトですが、登録人数は減少傾向にあり、最

も多かった二十年前の四分の一です。札幌地区の指導者の代表を務める菊地一泰さんは、「子供たちがあまり外で遊ばなくなってきたのは、さみしいことですね。昔の子は、日が暮れるまで友達と遊び、時にはけんかもしながら、相手を思いやる気持ちや世の中のルールを身に付けたものです」と話します。そういう機会が減った今こそ、集団活動で責任感や協調性を養うボーイスカウトの良さを多くの方に知ってもらいたいというのが指導者の願いです。「人前で

しゃべるのが苦手だったり、友達になじめなかったりといった子には、意識して大切な役割を持たせることがあります。時間はかかっても子供の成長に気付いたときが一番うれしい」と語る菊地さん。学校週五日制が導入され、休日の有意義な使い方が問われています。「保護者の方との連携も大切にしています。興味がある方は、ぜひ見学してください」。お問い合わせは、札幌地区副委員長高木暉さん(752)1620(コード撮影(株内)まで)。



札幌地区第1団の清掃奉仕。班長の掛け声でてきぱきと作業が進められていました

広告欄